



海外視察報告・東南アジア視察

ユニフォーム市場の成長に期待 人件費上昇など経営課題も

日本ユニフォームセンター（NUC）は、平成28年度の海外視察を東南アジアで実施しました。チャイナプラス1の担い手として重要なポジシオンを占めるインドシナ半島諸国の現状を把握するのが目的でした。経済の発展が進む中で、将来に向けてユニフォーム市場も成長が見込まれる感触を受けました。

石井銀二郎理事長を団長とする視察団一行18人は、11月13日から19日まで6泊7日の日程で、タイ・バンコク、ミャンマー・ヤンゴン、ベトナム・ホーチミンの順で回りました。まず、タイは全土で故プミポン国王の喪に服している最中でした。このため街行く人々は黒の服装を纏い、商店などサービス業の方は喪章を付けて偉大なる指導者だった国王の死を悼んでいました。そんなバンコクでは中心部にある宿泊先のホテル「デュシタニ」で、ベルボーイ、男女スタッフの制服について説明を受けました。素材はシルクで通年着用と

のことです。

次いでJETRO（ジェトロ）独立行政法人日本貿易振機構）を訪問。繊維関係の担当者から東南アジア経済圏の中心であるタイの経済動向及び繊維製品全般の状況について聴取。ユニフォームの市場規模は約500億円で、日本の10分1ほどでした。更衣室が足りないため制服での通勤が多く、オフィスでの着用も少ない様子。また、企業から支給された生地を市中の仕立屋に持ち込み、制服にするケースも多いそうです。

その一方、ユニフォームにプレミアを求める傾向やアパレルブランドのユニフォーム市場参入が目立つようです。

タイではこの後、紡績並びに染色工場の現状を把握するため、東レのLuckytex（Thailand）と帝人フロンティアのTHAINAMSIIRI I N T E R T E X を見学。合わせてタイ国内での生産状況や貿易及び周辺国の動向などについて関係性を伺いました。

ヤンゴンではシャツ工場の「LU THAI（ルータイ）」を訪問。資

本金1000万ドルで、総面積は24000平方メートル、建物14400平方メートル。訪問時の従業員は850人。平均年齢は22歳。作業者の平均給与は月120ドル。設備は縫製工程がマシン626台、プレス他54台、仕上げ工程は104台。昨年、目標にした生産量は65万枚でしたが、訪問段階での日産量は4000枚程度になっていました。

今後の年間生産目標は300万枚に置いているそうです。

ミャンマーではさらに婦人子供服・紳士服工場のAI Garmentを見学。韓国系資本の企業で、従業員は1300人。平均年齢24歳。賃金は1日3600チャット。月産能力はスーツ5万着、ジャケット12万着、コート4万着、パンツ20万本。主要な取引先は欧州と日本です。ミャンマー国内では規模、縫製レベルとも上位の工場だそうです。第2工

視察団名簿（敬称略）

社名	氏名
団長 (公財) 日本ユニフォームセンター	石井 銀二郎
副団長 (株) 高島屋	小野田 明宏
副団長 (株) ボンマックス	織戸 正彦
ツカモトユーエス (株)	佐藤 貴一
(株) チクマ	乗杉 研一
東レ (株)	出水 修
(株) 三景	澤津 順司
清原 (株)	巻淵 大
(株) マーケテック	水本 未央
(株) ユニコ	小椋 豊樹
イズミ産業 (株)	松田 浩一
(株) ユニウエル	田伏 賢司
(株) アイリス	大隅 友樹平
日本毛織 (株)	小山内 聡
(株) ダイイチ	鈴木 健太
カワボウ繊維 (株)	味岡 浩
東洋物産 (株)	持田 理恵
(公財) 日本ユニフォームセンター	桑木 誠

JETRO Bangkok
(タイ)



Luckytex (タイ)



Luckytex (タイ)



THAINAMSLRI
INTERTEX (タイ)



LUTHAI (ミャンマー)



ホーチミン高島屋 (ベトナム)



ベトナムではホーチミン市周辺にあるユニフォームの縫製工場2か所を視察。伊藤忠商事、ボンマックスにご協力頂いたBENLUOPACTORY BRANCH (UNIFORMS SAIGON 第2工場) とツカモトユーエスのご紹介による婦人服工場WISTERIA (ウイステリア) です。

WISTERIAは01年4月の設立で、資本金64万USD。社員数は400人(16年11月)で、うち縫製工場は290人。ブラウス、ズボン、ジャケット、ドレスなどの婦人服6ラインと肌着の2ラインを配置。月間の生産能力は2万5000枚。レディースファッションは100%日本向け。主要な

東南アジアの縫製業は年々、成長を続けています。その一方で厳しい現実も垣間見られます。最低賃金の上昇による利益圧迫、安定したテキスタイルのリーズナブル価格による適時的確な購入、生産品種プロダクトミックスでの安定稼働——などは喫緊の課題と言えます。

場では作業向けユニフォームやニット製品の縫製もしています。同地では他にパンツ、ニットウェアの工場Thiri Sandar Garment and General Tradingも視察。設立当初は、縫製の技術指導でJICA(独立行政法人国際協力機構)による支援を受けたそうです。国内では銀行を対象にユニフォームを売込み中とのことでした。

ニコ70%・ボンマックス20%・伊藤忠商事10%の出資比率で1996年6月に設立された企業です。ボンマックスが蓄積したユニフォームのデザインと生産・販売力及びユニコ、伊藤忠の資金力・海外情報力・物流・貿易ノウハウを優生結合し誕生しました。従業員278人(16年9月末)の本工場に加え、第二工場(342人Ⅱ同)、第三工場(114人Ⅱ同)があります。

取引先は百貨店、セレクトショップとの説明を受けました。ホーチミンでは両工場訪問の間に、昨年7月末に開店したばかりのホーチミン高島屋を見学しました。経済成長に伴って発生した高品質志向や新たな需要に対する日本式サービスの模様が把握するためです。店内は地上3階、B2の百貨店エリアと5階、B2の専門店エリアで構成。そんな中で日本の高島屋と同じ制服姿が目立ちました。



BENLUOPACTORY
BRANCH (ベトナム)



WISTERIA (ベトナム)